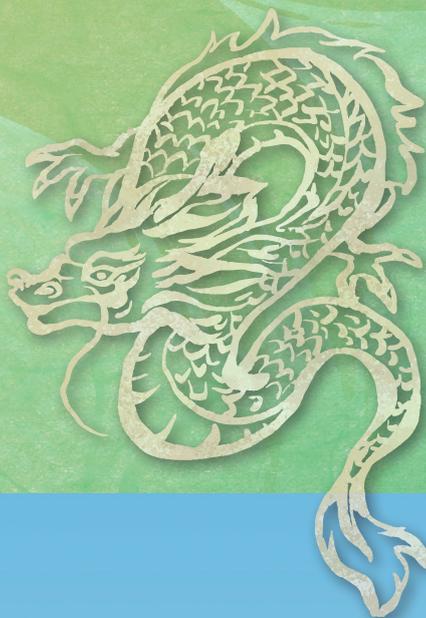


ひかり

JA東旭川だより



謹
賀
新
年



辰



TOPICS

新年のご挨拶 ②
役員研修報告 ⑫

No. **266**
2024.1.1

新年のご挨拶



代表理事組合長 畑山義裕



新年あけましておめでとうございます。

組合員の皆様におかれましては、ご健勝にて輝かしい新年を迎えられたことと心よりお慶び申し上げます。

また、JA事業へのご理解ご協力に対しまして、改めて感謝を申し上げます。

昨年を振り返りますと、東旭川農業の基幹作物であります水稻につきましては、田植期以降6月上旬に日照不足となったものの、その後はおおむね高温・多照で経過したことから分けつが進み、また出穂期以降の高温により、登熟は順調に進みました。しかし、作柄は「やや良」の見込みとなりましたが、実際に収穫してみると期待したほど収量が伸びていないとの声が大勢となりました。品位については、高タンパク米比率が近年例を見ないほど高い水準となりました。

畑作については、春小麦が7月高温の影響により収量減となりましたが、秋小麦については、平年並みの収量を確保することができました。大豆・そばについては、7、8月の高温などにより収量減となり、残念な年となりました。

そ菜・花きについては、夏場の高温の影響により、収量は平年を下回りましたが、価格が高値で推移しましたので、販売計画を達成することができました。

JAグループでは、国民が必要とし消費する食料はできるだけこの国で生産する「国消国産」という考え方を提起し、国民理解・行動変容に向けて一丸となった運動を展開しています。

持続可能な農業の実現に向けて、生産意欲が湧き上がるように、資材価格の高騰分が販売価格に転嫁できるように、適正な価格形成に向けた具体的な仕組みづくりを実践しなければなりません。

そのためには我々の経営努力はもちろんではありますが、消費者からの理解に加え、国からの力強い支援がなければなりません。

また、他にも解決すべき様々な課題がありますが、農業・JAの更なる発展のため組合員の皆様とともに取り組んでまいり所存でございます。

結びになりますが、本年が豊穰の年となること、並びに組合員の皆様方のご健勝をご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

謹賀新年

代表理事組合長 畑山義裕

筆頭理事 横尾政博

理事 請川幹恭

信用担当理事
(金融共済課長) 吉田一明

代表監事 紺藤正司

監事 荒内孝文

理事 坂井英樹

理事 佐藤絢也

理事
(営農販売課長) 吉原寿一

常勤監事 関根和子

令和6年の年頭にあたり



北海道農業協同組合中央会
代表理事会長 樽井

功



新年あけましておめでとうございます。

組合員の皆様におかれましては、日々営農に更に邁進されておられることと存じます。

また、組合員・役職員の皆様が一丸となり地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対しまして、改めて敬意と感謝を申し上げる次第であります。

昨年の北海道農業については、春先は天候に恵まれ地域によって降雹被害や竜巻の被害が見られたものの、概ね、平年並みに推移しておりました。しかしながら夏場は猛暑による記録的な高温多湿の影響を大きく受け、各作物の生育自体は、全般的に平年よりも早く進んできましたが、各作物等の収量および品質の低下が顕著となる残念な年でした。

新型コロナウイルス感染症の位置付けは昨年5月より5類に移行し、コロナ禍以前の日常を取り戻しつつありますが、各農畜産物の消費は依然として低迷しており、さらに、国際紛争や急激な円安の進行による飼料・肥料をはじめとした生産資材の高止まりが、農業経営に与える影響は甚大なものとなっています。

さらにこれらの影響を受け、世界の食料需給事情が一変しました。輸出制限を行い、自国の食料を確保する各国の動きが活発化し、世界的な人口増加による食料不足問題など食料争奪合戦がすでに始まっています。我が国の食料を安定的にどう確保するのか。今こそ大いに食料安全保障の国民的議論が必要となっています。

現在、日本の食料自給率は38%しかありません。

これは、世界の先進国の中で最低の水準であり、6割以上の食べ物を輸入に頼っているのが日本の現状です。

食料安全保障の強化が国家の喫緊の課題であることから、我が国の食料供給基地である北海道農業が果たしてきた役割、そして北海道農業への期待は、今後ますます大きくなるものと考えております。

J Aグループ北海道は、日本の食料基地であるという使命感に立ち、食料の安定生産・安定供給と農畜産物の需要拡大を両輪として引き続き取り組むことが重要であり、国民の命の源である食を守り続けるにも、まさに新しい農業を築き、未来の世代へ繋いでいく必要があります、行政や全国連とも連携し、しっかりとその対応を図って参ります。

今年は、第31回J A北海道大会が開催されます。

また、第30回J A北海道大会の実践最終年度であり、決議された将来ビジョンである、「北海道550万人と共に創る『力強い農業』と『豊かな魅力ある地域社会』の達成」の成果をしっかりと検証し、次のJ A北海道大会に繋げていく必要があります。

このような状況であるからこそ、協同組合運動の原点に立ち返り、相互扶助の精神に基づき互いに協力し、力を合わせこの難局を乗り越えることが重要となります。

消費者の皆様に対しては、今まで以上に農業・食に対する理解を求めため、J Aグループ北海道統一の情報発信のフレーズである「アグリアクション北海道」を浸透させ、より効果的な情報発信を行い、J Aグループが提唱する「国産国産」の認知を広めてまいりましょう。

結びになりますが、本年は辰年です。辰年は陽の気が動いて万物が振動するので、活力旺盛になって大きく成長し、形がととのう年だといわれています。

この謂われにあやかり、本年が豊穰の年となること、皆様のご健勝をご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

新年にあたって



上川農業改良普及センター
所長 鈴木康義



新年あけましておめでとうございます。

組合員の皆様には、新たな気持ちで輝かしい初春をお迎えのことと存じます。

また、皆様には平素から普及センターの活動全般にわたり深いご理解と温かいご支援を賜り、心から感謝を申し上げます。

昨年を振り返りますと、融雪期は平年と比べ11日早い3月29日となり、例年にない温暖な春を迎えました。融雪後、耕起作業は平年に比べ7日早く始まりましたが、その後の断続的な降雨等により、春耕期の作業は平年並みとなりました。6月初旬に低温の期間がありましたが、その後の天候は順調に推移しました。大きな気象災害は無かったものの、例年にない高温多湿の気象経過であり、特に8月中旬から9月中旬にかけての高温条件から各作物とも、平年どおりの品質・収量を確保することが難しい年となりました。

こうした気象経過から、上川地方における水稻の作柄は、収穫を前に倒伏が多く見られ、懸念された胴割粒等は多くなかったものの、品種によっては白未熟粒が多く、高タンパク化など品質に大きな影響を及ぼしました。各転作作物についても高温の影響や、降雨による収穫期の遅れにより品質・収量の低下を招いています。しかし、園芸作物については、高温による影響は見られたものの、全国的な供給減による価格の上昇で増益となった品目もありました。

このような状況にあって、気象条件や病害虫の発生に対応した、皆様のきめ細やかな栽培管理が凶作を回避する結果に繋がったものと、改めて敬意を表すところでありますが、今後も気候変動による農業生産への影響に対しては警戒と対策を考えなければならない状況にあると思います。

国では令和4年に「みどりの食料システム法」を制定し、農林漁業及び食品産業の持続的な発展、環境への負荷の少ない健全な経済の発展等をめざしています。また、国際情勢の変化から生産資材価格の高騰が農業経営に多大な影響を与えている中、国内では、食品原料価格の値上がりが続ぎ、食料安全保障等、農畜産物の国内生産に対する期待も高まりつつあります。先行きが予想できない状況ではありますが、上川地域農業の優位性や潜在力を最大限に活用することで、この難局を乗り越え、持続可能な生産基盤を確立できるものと考えます。

普及センターも、国内外の情勢を的確に捉え、組合員の皆様及び関係機関の方々と一体となり、共に考え、生産振興と地域振興を支援してまいりますので、皆様の一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年が皆様にとりまして健康で希望に満ちた良き年となり、豊穡の年となりますことを心よりご祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

謹賀新年

北海道上川総合振興局 上川農業改良普及センター

所長	鈴木康義	次長	松浦準
地域第四係長	星春光	主査(畑作)	吉川文哉
専門普及指導員	古川薫	専門普及指導員	太田雅章



新年のご挨拶



青年部
部長 鹿野 剛

新年あけましておめでとうございます。

組合員の皆様をはじめ、各関係機関、JA役職員の皆様には日頃より青年部活動にご協力、ご理解賜りまして厚くお礼を申し上げます。

また、女性部との合同事業「ごはんがすすむ農家めし」では、一昨年に引き続き女性部の皆様には大変お世話になりました。昨年もさつまいもを使った料理のレシピを考案し、JA東旭川のさつまいもをアピールすることが出来ました。本当にありがとうございました。

昨年を振り返りますと、6月には家族や従業員を交えた親睦会を開催しました。焼き肉を食べながら農業の話はもちろん、今後の地域の話や子どもたちの話で大いに盛り上がりました。

7月には夏期研修を開催しました。研修先の道総研では、新しい手法を用いた野菜の病害虫対策や試験栽培の取り組みや考え方、品種の選定等を学びました。北日本スカイテックでは、発展が目覚ましいドローンや試験段階のオートパイロットによるヘリコプターのデモフライトを見学させていただきました。新篠津村の大塚ファームでは、ミニトマト、きゅうりやズッキーニ、さつまいもなど有機JAS認定の作物を見学させていただきました。生産だけでなく加工やパッケージから販売まで自社で行っていると伺い、興味津々に質問が多く有意義な研修となりました。

また、旭川神社で行われた神社エールへのイベント出店では、部員一丸となって野菜やポン菓子等の販売を行いました。東旭川地域の人はもちろん、地域外からの来場者も多く、自分達の農産物や、人となりを知って頂く貴重な機会であり、また、実需者や一般消費者の方々に東旭川の農産物を選んでいただく為にも、大変重要なイベントになっています。

上川地区青年部協議会の中央ブロック交流会や、上川地区青年部大会、北海道大会に参加するなど、すべての事業がコロナ禍前に戻り、うれしい反面、少し忙しい一年となりました。

たくさんの事業を行っていますが、部員が少ない組織です。部員の大半が経営者になっていることもあり、活動に参加してくれる人数がかなり減ってきました。まだ実施にいたっていませんが、地元小学校と連携して農村風景のある絵画コンクールを行う計画を進めています。人数が少なくても開催できる事業、農の魅力を効果的に知ってもらえるような活動を考え、小さな組織でも大きな価値を生み出す青年部を目指していきます。また、研修会や勉強会を重ねて、一人一人がもっと自覚を持ち、地域の自慢の人材になれるように努力していきます。

最後になりますが、本年が皆様にとって豊穡の年となる素晴らしい1年になることを祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。

謹賀新年

青年部

部 長	鹿野 剛	副 部 長	横尾 裕司
会 計	中村 悠	監 事	鈴木 涼介



新年のご挨拶



女性部
部長 吉岡 京

新年あけましておめでとうございます。

組合員の皆様には、日頃より女性部活動にご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

昨年は新型コロナウイルスが感染症法上の5類へ移行したことにより、感染予防を心がけながら女性部活動を再開することが出来ました。

振り返りますと、野菜集荷場前の花壇作りでは部員皆様のご協力により昨年も見応えのある華やかな花壇を作る事が出来ました。青年部との合同事業では、昨年もさつまいもレシピを考案し、JA上川ビルのみはら食堂で提供されました。夏期研修では「道と川の駅 花ロードえにわ」、「えこりん村」へ行き、1本の苗から2万個のトマトがなっている様子や珍しい野菜・花の苗を見る事が出来ました。また、4年ぶりに開催する事が出来た冬期研修では厚真地区の災害からの復旧の様子や「ウポポイ」ではアイヌの文化や生活について学び、部員同士の交流を図る事が出来ました。

女性部としては今年も、食農教育活動など「食」に関する活動はもちろん、花壇作り等の環境保全活動、健康づくりに関する活動に取り組み、部員一同精一杯頑張る所存でございます。

最後になりますが、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げ新年のご挨拶とさせていただきます。

謹賀新年

女性部

部長 吉岡 京

副部長 椎名 ゆかり

会計・書記 田村 裕美子

監事 小泉 和子

謹賀新年

東旭川農協地域農業再生協議会
JA東旭川担い手育成総合支援協議会
東旭川農協地域営農活性化総合推進協議会

会長 畑山 義裕
委員 横尾 政博
委員 佐藤 絢也
委員 鈴木 初彦
委員 守屋 大輔
委員 鹿野 剛
委員 小原 隆
監事 関根 和子

副会長 小檜山 隆
委員 坂井 英樹
委員 吉田 一明
委員 大橋 政美
委員 鈴木 英義
委員 吉岡 京
委員 外山 実
監事 荒内 孝文

委員 請川 幹恭
委員 吉原 寿一
委員 市田 敏行
委員 泉 誘一
委員 川西 忠一
監事 紺藤 正司

新年のご挨拶



稲作協議会
会長 佐藤 絢也



新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様には、日頃より稲作協議会の活動に対してご理解・ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、春の雪解けは順調に進み、その後も天候に恵まれたことで順調に春作業が進んだと思います。田植え後は6月上旬まで低温と強風により生育が心配されましたが、影響は少なく豊作の出来秋を期待しました。しかし、秋を目前に多くのほ場で倒伏した稲が見受けられ、収穫時は大変苦労されたかと思えます。北海道の作況指数は「104」となりましたが、実際に収穫してみた手ごたえとしては平年並み位だと感じました。品質については、一昨年とは違い低タンパク米が少なく、高温等による乳白や胴割れ等も多少見受けられましたが、会員皆様のご協力により全量1等米での出荷ができました。しかし、JAへの出荷は一昨年より1万3千俵少ない6万8千俵と出荷量の少ない残念な結果となってしまった1年でした。

また、昨年はコロナ禍による行動制限が解除となり、4年ぶりに道内視察研修を開催し、中央農業試験場や空知方面にて「空育195号」の栽培試験や直播栽培について研修を行いました。また11月には道外視察研修を行い、当JAの取引先である沖縄食糧株式会社を訪問し、北海道産米の販売状況や今後について情報交換及び意見交換を行いました。

今年度も直播栽培研究会や業務用米研究会と協力しながら直播栽培や新品種等の試験栽培を行ってまいります。また、普及センターやJAと協力し近年発生している異常高温への対応等、時代や環境に合った栽培技術の研究を進め、会員の皆様と情報を共有することで東旭川稲作の発展に努力していきたいと思えます。

最後になりましたが、今年も稲作協議会の活動に対しご理解、ご協力をいただきながら活動をしていきたいと思っています。その中で、災害が無く豊穡の秋を迎えられる事、会員の皆様方のご健勝とご活躍をご祈念申し上げます。新年のご挨拶と致します。

謹賀新年

稲作協議会

会長 佐藤 絢也
理事 高橋 伯尚
理事 坂井 恵一
監事 大江 健

副会長 斎藤 雅紀
理事 鹿野 剛
理事 横尾 裕司
監事 菅原 俊雄

会計 大橋 誠
理事 三橋 泰文

新年のご挨拶



畑作協議会
会長 荒内孝文



新年あけましておめでとうございます。皆様には、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃より畑作協議会の活動に多大なるご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、新型コロナウイルスが5月に第5類感染症に位置づけられ行動制限が原則なくなり、以前より研修会、講習会等行うことが出来、会員同士の交流も少しずつ戻ってきたのかなと思います。

また、昨年の天候については、近年の高温傾向と多湿、集中的な降雨の中、播種作業、管理作業等、大変苦勞された事と思います。

収量に関しては、秋小麦、春小麦（初冬）は平年並み、春小麦（慣行）、そばは高温による減収、大豆に関しては品質低下に伴い減収という結果になりました。

今年は、畑作物全般の高温対策が必要になってくると思います。資材や管理技術等について、上川改良普及センターやJAと相談しながら会員の皆様に研修会等で情報を提供できるように準備していきたいと思っております。

そして、消費者に対し「安全・安心」な農産物を提供することを基本とし、協議会として、今後も技術の共有に力を入れ、収量増、高品質生産に向けて取り組んでいきたいと思っておりますので、ご協力いただきたくお願い申し上げます。

本年も皆様が健康でご活躍され、豊穰の秋を迎えられますことをご祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

謹賀新年

畑作協議会

会長 荒内孝文

副会長 三上善寛

副会長 外山 実

会計・書記 三橋泰文

理事 高橋伯尚

理事 小竹一茂

理事 大橋 誠

監事 阿部寛正

監事 綱島 健

新年のご挨拶



旭川青果物生産出荷協議会東旭川支部
会長 守屋大輔



新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては輝かしい新年を迎えられたことと心よりお慶び申し上げます。また、協議会活動にご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、一言目に出てくるのは「暑かった」という言葉だと思います。そ菜・花きについては、高温の影響により収量の減少や障害が発生し栽培管理に苦労された年だったと思います。国連事務総長が地球温暖化の時代は終わり地球沸騰化の時代に突入したとお話されていた通り、世界はもちろん国内でも全国各地で気温が上昇し農畜産物の生産量が減少するなど多大な影響が出てしまいました。また、ある地域では偏西風の蛇行による集中豪雨被害があったと思えば他の地域では干ばつが起きるなど異常気象と言われることが毎年発生しており、生産者は気候変動に対応するための苦労が年々増していつているように思います。

新型コロナウイルスが落ち着き行動制限が殆ど解除され、インバウンドの回復や観光飲食業の活気が戻り経済活動が活発化するなど明るいニュースもありました。また、AIの飛躍的な進化があちこちのメディアで散見され近い将来農業の発展に大きく寄与してくれるだろうと感じることが多くなりました。ただ、世界では戦争や紛争がまだまだ続いており、エネルギー価格高騰によって日常生活はもちろん肥料価格や資材費の高騰など影響は非常に大きかった年でもあり、それに伴い「農政の憲法」といわれている食料・農業・農村基本法の見直しも活発化され、日本のウィークポイントである食料確保や自給率の問題がより一層顕在化されたように思います。農家に対する制度や政策をもっともっと充実させ、持続可能な農業にむけてより良く整備していただきたいと常々思うところであります。

当協議会も状況や時代に合わせながらも先を見据えた活動ができるよう会員の皆様と建設的に考え行動していかねばならないと思います。一朝一夕でできることではありませんので少しずつ会員の皆様と良い方向に向かって行きたいと思っております。

最後になりますが、本年度も皆様のご協力とご多幸をお祈り申し上げ、新年の挨拶にかえさせていただきます。

謹賀新年

旭川青果物生産出荷協議会 東旭川支部

会 長	守屋大輔	副 会 長	小原 隆
会 計	玉 臺 雄 司	理 事	鎌 田 弘 信
花き部会長		ねぎ部会長	
理 事	佐々木 孝日	理 事	遊 佐 智 和
白かぶ部会長		ししとう部会長	
理 事	赤 羽 智 史	理 事	工 藤 慎 吾
ほうれん草部会長		チンゲン菜部会長	
理 事	山 本 昭 一	監 事	大 江 健
		千本ねぎ部会長	

新年のご挨拶



兵村の里運営協議会
会長 鈴木英義



新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、つつがなく新年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。また、協議会活動にご支援ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスが感染症法上の5類へ移行したことにより、旅行や経済活動が回復に向かい、個人消費が増えたことにより農作物も比較的売やすくなったように感じました。高温等により相変わらず管理の難しい年でしたが、そのような中、会員の皆様には兵村の里へ出荷いただきありがとうございました。

今年も地球温暖化により高温等の異常気象が予想されますが、このような中でも会員の皆様と対策を考えながら、売り場のより一層の充実を図り、お客様のニーズに応じていきたいと思っております。兵村の里の野菜・花は小面積でも出荷でき、消費者の反応も直ぐに実感でき、会員の皆様が丹精込めて作った作物を個々に販売価格を設定できるのでとてもやりがいを感じています。今年も地産地消を基に会員一同活動していきたいと思っておりますので、ご支援ご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご健康とご多幸をお祈り致しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

謹賀新年

兵村の里運営協議会

会 長 鈴木英義
副 会 長 森山志穂
会 計 赤羽智史
理 事 佐藤豊子
〃 玉臺雄司
監 事 坂井恵一

謹賀新年

参 事	鈴木初彦	監査室長兼管理課長	日野原奈々恵
企画課長兼審査課長	角麻衣子	金融共済課長	吉田一明
金融共済課次長 (金融担当)	鈴木達也	金融共済課次長 (共済渉外担当)	野崎亜耶
金融共済課次長 (共済担当)	北條拓也	金融共済課長補佐 (共済担当)	勝見義昭
営農販売課長	吉原寿一	営農販売課次長	小薮亮平
統括生産資材課長	四月朔日彩香	生産資材課長	谷健太郎
燃料課長	山本純	豊田支所長	広田拓也

品目	令和5年度 計画				令和5年度 11月末実績			令和4年度 11月末実績			計画対比			前年対比		
	作付面積	販売数量	販売金額	kg単価	販売数量	販売金額	kg単価	販売数量	販売金額	kg単価	数量	金額	単価	数量	金額	単価
	a	kg	千円	円	kg	円	円	kg	円	円	%	%	%	%	%	%
ピーマン	116	116,000	46,400	400	96,922	63,815,648	658	123,105	62,598,606	508	84	138	165	79	102	130
ミニトマト	280	145,600	99,000	680	114,916	92,854,962	808	120,717	95,449,456	791	79	94	119	95	97	102
トマト	100	100,000	33,000	330	131,006	41,409,252	316	149,867	46,611,287	311	131	125	96	87	89	102
チンゲンサイ	180	65,000	26,000	400	61,970	26,486,543	427	67,502	28,298,457	419	95	102	107	92	94	102
ほうれん草	91	8,190	5,500	680	3,485	2,744,116	787	6,292	4,812,377	765	43	50	116	55	57	103
ししとう	41	18,000	20,000	1,100	14,146	23,684,621	1,674	13,759	20,043,465	1,457	79	118	152	103	118	115
白かぶ	40	10,000	2,500	250	9,950	2,637,978	265	11,506	3,639,382	316	100	106	106	86	72	84
千本ねぎ	60	2,500	2,800	1,100	1,348	1,975,171	1,465	2,004	2,696,035	1,345	54	71	133	67	73	109
花き	320		60,000			70,634,177			65,225,397			118			108	
その他		130,200	52,800		95,165	45,452,225		110,796	48,663,241		73	86		86	93	
(小松菜)	200	28,000	12,600	450	27,450	12,369,562	451	26,736	10,510,009	393	98	98	100	103	118	115
(激辛なんばん)	6	4,000	3,600	900	2,158	2,655,036	1,230	3,447	3,065,756	889	54	74	137	63	87	138
(ブロッコリー)	50	8,200	1,300	160	1,222	167,617	137	4,188	650,069	155	15	13	86	29	26	88
(さつまいも)	450	90,000	12,600	140	41,883	5,880,457	140	53,206	7,470,234	140	47	47	100	79	79	
(その他)			22,700		22,452	24,379,553		23,219	26,967,173			107		97	90	
兵村の里			52,000			54,733,209			52,881,713			105			104	
計	1,228	595,490	400,000		528,908	426,427,902		605,548	430,919,416		89	107		87	99	

農業用ビニール・ポリ回収を実施

11月15・16・20日の3日間にわたり農業用ビニール・ポリ等の回収が行われました。

15日の農薬ボトル・苗箱回収と16日の農業用ビニール・ポリ回収では延べ148件の34.8 t、20日の硬質プラスチック回収では46件の3.7 tが回収されました。

回収にあたりまして稲作協議会・畑作協議会・青年部・旭川青果物生産出荷協議会東旭川支部・兵村の里運営協議会の皆様にご協力をいただき、大変スムーズに回収を行うことができましたことに厚くお礼を申し上げます。

組合員の皆様には、次回の回収の際にも、分別回収へのご理解とご協力をお願い申し上げます。



役員研修報告

11月8日から11日の4日間の日程で新潟県・富山県・愛知県への役員研修を実施致しました。

1日目

亀田製菓株式会社

新潟県にある亀田製菓株式会社にて、お米を使った商品開発と取り組み内容についてお話を伺った後、米菓の定番商品である「柿の種」の工場ラインを視察してきました。

亀田製菓株式会社は、戦後の食糧難の時代から「生活に潤いと喜びをお届けしたい」という想いで1946年に創業されました。以来、一貫して日本の食の基本である「お米」を素材とした米菓にこだわり、長年にわたり老若男女問わず誰からも愛される商品づくりを目指しております。

また、国内事業にとどまらず、海外にも拠点を置きニーズに合わせた様々な商品展開をすることで、日本の米菓を世界に発信されております。

近年ではお米を使った食品事業を展開され、小麦が食べられない方への100%米粉パンやパン粉を開発、販売されているほか、長期保存食として注目されている“アルファ米”にも取り組まれております。特にこれまで非常食として提供されていたアルファ米が、登山者等からの需要が高まってきているため、需要層の変化と拡大も感じられるとの話を伺いました。

会社全体のお菓子に使用されている原料米は、年間3万6千トンが使われており、そのうち「柿の種」には1万トンもの米が使用され、おいしさへの追及をし続けられております。



フードメッセ in にいがた2023

日本各地で開催されるフード商談会が、新潟県にある朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターにて開かれており、食品・食材から機器・容器まで、「食」に関連した独自商品や最新情報を出展されている総合見本市を視察致しました。

今回出展されていたのは、北海道から沖縄まで約400の事業者が、「食」に関するあらゆる分野の業者と差別化商材や最新の機器・容器を探す仕入れ担当者との出会いの場であり、出展されている事業者の話が聞ける貴重な時間となりました。



2日目

朝日酒造株式会社

新潟県にある朝日酒造株式会社にて、酒造りへのこだわりや製造工程について伺いました。

日本酒「久保田」で有名な朝日酒造は、今から190年前よりお酒を造られ、現在では東京ドーム1個分ほどの敷地に工場をかまえ酒造りが行われております。

創業地内を流れる清澄な地下水を使用し、「酒造りは、米づくりから」との思いから、「農業生産法人有限会社あさひ農研」を立ち上げ、厳格な品質管理のもと地域の契約栽培農家と協力しながら酒造適性の高いお米を育てられておられます。



JAあおば

富山県高山市内より車で約30分の場所に位置するJAあおば本所に伺い、子会社経営や合併の取組経過についてお話を伺ってまいりました。

JAあおばは、平成13年3月の市町村合併とともに、富山県の4JAが合併により誕生したJAです。その後、平成16年4月に26支店を4基幹支店へ統廃合し、令和5年3月にはJA山田村と合併し現在に至ります。子会社は全部で3社あり、農作業受託事業を行う「株式会社グリーンパワーあおば」、自動車関連事業を行う「あおば興産株式会社」、葬儀事業を行う「株式会社セレモニーあおば」です。

米の販売としては、売れる米づくりとして、5年前より業務用米「つくばSD2号」を主食用米生産の一翼を担う品種と位置づけて作付けを開始し、現在ではJAあおばから出荷されたお米は業者を通じ、コンビニエンスストアの弁当等に採用されています。

懇談の中では、合併までの経過について詳しくお話を伺ったほか、ライスセンターの経営についての質問や、農業生産法人についての質問、また地域内の協力会議や情報収集について等、積極的な意見交換を行い、有意義な研修となりました。



3日目

大和産業株式会社

愛知県にある大和産業株式会社にて、北海道米の販売状況についてお話を伺いました。

大和産業株式会社は自社ブランド「ヤマトライス」を有し、全国各地の厳選されたお米を販売されており、現在は東旭川産“ななつぼし”と“えみまる”も販売していただいております。

北海道という地域のクリーンなイメージが販売比率として伸びてきており、特に東旭川産“えみまる”は令和4年産米より産地指定米として販売し、他の地域との差別化が図られているというお話がありました。

また、当JAからは作付状況及び今後の方向性や“きらら397”の後継品種である“そらきりり”の情報交換及び意見交換を行い試験栽培状況について報告致しました。



以上、役員研修の概要についてご報告と致します。

コンプライアンス研修会開催

11月17日、農協法公布記念日に併せ、全役職員によるコンプライアンス研修会を開催致しました。

J A北海道中央会旭川支所 次長 ^{たかさご ともゆき}高砂 朋之 氏 と 調査役 ^{こじま たけちか}小島 健睦 氏 を講師に迎え、コンプライアンスの遵守・ハラスメントに関する理解と個人情報保護の重要性やインサイダー取引防止について講演をいただきました。

道内J Aで発生した不祥事例や未然防止に向けた取り組み、ハラスメントの実態と防止のための取り組みや個人情報の取り扱い方法等について役職員全員で再認識しました。

今後もコンプライアンスの意識を高めるとともに、職場内で良好な人間関係を構築し、働きやすい職場をつくることにより不祥事の未然防止に取り組んでまいります。



令和6年度 営農計画書の提出について

令和6年度の営農計画書について、1月中旬クミカン報告書の配布時に各戸へお届け致しますので、下記の要領にて期日までにご提出願います。

1. 提出期限

令和6年1月31日（水）

2. 提出先

農事組合	提出先
西・本町、南地区、北地区	金融共済課（金融）
日の出・倉沼、桜岡地区	営農販売課
豊田、ペーパン	豊田支所

皆様から提出されました営農計画書に基づき①供給限度額 ②現金支出限度額 ③貸越極度額 が設定されますが、営農計画書樹立までの間、2月末まで暫定限度を設定させていただきます。暫定限度については、家計費を前年度の30%以内とし、家計費以外の項目については、前年度計画の範囲内と致します。

※提出方法については1月中旬のクミカン報告書配布時に改めてご案内致します。

女性部

「ご飯がすすむ農家めし作っちゃおう」に参加しました

11月18日、JA上川ビル1階食育ホールにて「ご飯がすすむ農家めし作っちゃおう」の食育イベントが行われ、当JAより吉岡部長と椎名副部長が講師として参加しました。

このイベントは、生産者と消費者の交流を目的に、上川管内の小学生及び保護者8組が参加し各JAの



女性部・青年部が考案した「ご飯がすすむ農家めし」を一緒に調理するというもので、当JAのさつまいもを使った「レーズンの入ったさつまいもサラダ」とJA道北なよろの「スイートコーン入りキーマカレー」を一緒に調理しました。

参加した親子からは「美味しかった」「楽しかった」との声をいただくことができ大変有意義なイベントとなりました。

定年退職のご挨拶



岩谷 倫明

組合員の皆様には、益々ご清栄のこととお慶びを申し上げます。

この度、12月末日をもちまして、長年お世話になりましたJA東旭川を定年退職致しました。顧みますと、昭和58年7月に生産資材課に採用していただいてから、以来40年6ヶ月にわたり勤務させていただき今日を迎える事が出来ました。

これも偏に組合員の皆様をはじめ、役職員の皆様方の温かいご指導・ご厚情の賜と心より厚くお礼申し上げます。

定年退職後も引き続き（株）アグリファーストで勤務させていただくこととなりましたので、今後とも変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

農業・JAを巡る情勢は極めて厳しい状況ではありますが、組合員・役職員が一枚岩となってこの難局を乗り越えていかなければなりません。

私も微力ではありますが、力を尽くしてまいる所存でございますので、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。最後に組合員皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げますと共に、JA東旭川の益々の発展をご祈念致しまして、定年退職のお礼のご挨拶とさせていただきます。

人 事 異 動

異 動

令和5年12月1日

岩谷 倫明 解命 豊田支所長
管理課付次長(株アグリファースト出向)

広田 拓也 解命 管理課付次長(株アグリファースト出向)
豊田支所長

退 職

お世話になりました。

令和5年12月31日

管理課付次長 (株アグリファースト出向)

岩谷 倫明

行事経過と予定

1 月

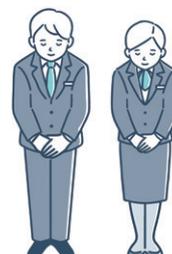
- 9日 新年恒例会・五穀豊穰祈願祭
- 25～27日 組合員宅巡回訪問
- 31日 事業年度終了
みのり監査法人棚卸立会・実査
決算棚卸（生産資材店舗、豊田支所（購買店舗）は休業）

2 月

- 26～28日 組合員宅巡回訪問

臨時休業のご案内

1月31日（水）は、決算棚卸のため生産資材店舗・豊田支所（購買店舗）を休業致します。ご迷惑をおかけしますが、よろしくお願い致します。





さかもと かずなり
坂本 一成

令和5年2月 生産資材課 勤務

(生産資材課)

- ・趣味：サッカー観戦 ライブ、フェスに行くこと
- ・特技：短時間で寝られること
- ・好きな食べ物：焼肉
- ・最近ハマっている事：子供とボール遊び
- ・仕事をしていて嬉しかった事
感謝の言葉をいただいたとき
- ・本人よりひとこと
皆様のお力になれるよう日々努力してまいります。よろしくお願い致します。

みんなの広場

オジロワシ
(撮影地：南2の2)



シマエナガ
(撮影地：本所事務所前)



(撮影：編集委員)

パレット返却のお願い

肥料の早期取りまとめ・お引き取りにご協力をいただきありがとうございます。

当JAで配送等に使用しているパレットが不足しておりますので、庭先に空きパレットがございましたら、生産資材課までご連絡をお願い致します。

道栄パレット



リースパレット・生産資材課パレット



お問い合わせ先：生産資材課 ☎36-6031



編集後記

新年あけましておめでとうございます。
昨年も地球温暖化の影響により高温等の異常気象が続き栽培管理に苦労された年だったかと思いますが、皆さんの農産物を出荷いただきありがとうございます。
また、コロナ禍もようやく落ち着き、親睦会等を通じて以前のように皆様と交流が出来るようになりとても嬉しく思っております。

今年も生産者の皆様が丹精込めて作った美味しい農産物をより多くの消費者に供給できるよう努力してまいります。
物流問題等なにかと暗い話題が多いですが、JAだより「おーひかりー」を通して少しでも明るい話題を提供していきたいと思っておりますので、引き続きご愛読よろしくお願い致します。
(尾内)